



2020年1月6日

各位

新年のご挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年、当社グループの歴史において重要な節目となる年でした。アイスリュイの販売が好調だったことにより、中国の売上高（人民元ベース）を昨年比で70%以上上回る見込みです。このことにより、為替の変動や研究開発費の増加があったにもかかわらず、営業利益および親会社の所有者に帰属する利益を計上することが出来ました。また、当社グループの新工場は昨年より、生産を開始しており、今後の需要増に応えるべく、生産能力を最大、以前の10倍にするとともに人員体制の強化を行い、当社グループ（日本、米国、中国）の総従業員数は400名を超えました。

当社グループは、今後も研究開発型製薬会社として邁進してまいります。昨年の肝線維症治療薬F351の中国における第2相臨床試験のデータ集積終了は、アイスリュイに続く医薬品を創薬するという当社の夢に向けた重要な一歩となりました。今まで、アイスリュイが唯一の薬剤として上市され、当社グループを今日のステータスに引き上げてくれましたが、F351が承認されれば、当社の将来は大きく変わることになると思います。

F351に加えて、2018年に行った画期的な標的タンパク質分解誘導技術への投資により、当社の将来の開発パイプラインには抗がん剤が増えることとなります。また、腎臓、肺、および肝疾患領域の開発候補化合物の研究開発も今後の開発パイプラインの強化につながります。このように、当社グループは今後の10～20年間、成長を維持できる製品ポートフォリオを持つことを目標としてまいります。

開発パイプライン、事業からの収益、国際的な展開は、当社グループのビジネスモデルの重要な要素です。昨年は、事業収益の黒字化を達成致しましたが、今後は、常に短期的な収益と長期的な成長機会のバランスをとることを意識する必要があります。中国、米国、日本の主要市場での事業の拡大を続けながら、国際的な金融の混乱に備える覚悟が必要です。

当社グループの戦略的目標は、患者の皆様にも新たな希望をもたらすことにより、10年以内に中規模の国際的な製薬会社になることです。このような目標は、今後の事業計画を揺るぎない信念とコミットメントを持って実行し続けた結果として実現できるものです。引き続き皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2020年が皆様にとって幸多き年になりますようお祈り申し上げます。

取締役代表執行役社長兼 CEO イン・ルオ